油豆行情（中曆十二月十二日）
青豆價錢六吊川百七十文至六吊二百文
合豆價錢五吊六百文至五吊四百五十文
小米價錢七吊六百文至七吊二百七十文
紅糧價錢五吊五百文至四百五十文

傘 全 赤味 札幌麥酒 蜂印香竄葡萄酒 全 九升入 大樽 四打入 全 同五圓 同四圓三十錢 同九圓八十錢 同二十二圓五十錢
筍 梨 桃 人形ミルク 全 四打 二打半 同八圓五十錢 同十一圓 同九圓五十錢 同十二圓五十錢
粟 全 小四百五十本入 六千二百本入 同十圓 同十六圓 澤龜 正味四斗四升入 十七圓 サッポロビール 九圓七十錢（宅合名會社調査）

滿州日報

○報價目
毎月收取八角代賣所及送報人并無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者毎行二角毎登十日行一角五分登月者毎行毎日一角登長年者價當面議 從減 毎張四百文

特別廣告
◀資本金貳千四百萬圓
◀積立金一千零拾四萬圓
本支店出張所
横濱 神戸 東京 長崎 大阪
倫動 里昂 紐育 桑港 布哇
孟買 香港 上海 天津 北京
大連 旅順 奉天 芝罘 鐵嶺
電話 十番 支配人室 百八番 事務室
横濱正金銀行牛莊支店

滿洲日報各地賣捌所
滿洲日報廣告取次所
大連市磐岐町三百三十八號 **日華運輸公司**
遼陽 遼陽倶樂部 **谷口令朝太郎**

M. Iizuka,
CONTRACTOR,
ARCHITECT AND CIVIL ENGINEER.
Plans and specifications made to order.
ESTIMATES SUBMITTED.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

醬油釀造販賣
●樽詰 ●瓶詰 ●桝賣
卸小賣共精々廉價に販賣仕候御進物として至極体裁宜しき特製四合入瓶詰一打箱入も有之候間多少に拘はらす御用被仰付度奉希上候尚御用の節は下名の内何れにても電話にて御申付被下候は丶直に御届け可申上候
紋定門街 **東肥洋行**（電話一七號）
二官街 **東來醬園**（電話百二號）

三井洋行
啓者本行開創在中外通商各埠己有年歷所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙久商光顧請相商是荷
●精製白砂糖新入荷物あり
倉庫部
今回倉庫所在地（青堆子精搗場上隣り河岸）の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は全所へ御照會被下度願上候（電話百二十八番）

宅合名會社
本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤龜印并一切雜貨其名譽己傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同德院內分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣帶標布手巾花巾東洋緞子洋陇鐘表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請屈臨爲幸
總司理人 田中賴之助謹白

東盛和
本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寛大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便囤貯油餅豆米麥更爲合宜兼置有輪船一艘名城多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚棧租格外從廉 貴客賜顧請到小號面議是荷
總司理人 葉亮卿謹白

東永茂
機器油房在營口創辦油榨生意多年以本營業非祇做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物并代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之正理事潘玉田 副理事金德魁 設在營口西北街路南

西義順
本號開設營口西街老爺閣前路南營乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寛大凡中外士商賜顧者請認明招牌決不致悞 本主人敬啓

仁裕號
係裝運各種火輪船生意兼賣各樣洋什貨種石等此佈
營口西大廟街路北營乙第十三號

恒有長
本號開設在西大廟街路南第十一號廣福雜貨一應俱全價值格外從廉克己并另設銀爐包營銘鑄以應急需久爲中外士商所推許凡賜顧者請認明招牌爲荷

元茂盛
油坊買賣元荳油荳餅雜色粮石以及代客購辦雜貨布疋一概發行裝運沙寶煬船交易南北客商歷有年矣爲此謹白
開設營口西街老爺閣前路北營乙第四十九號

德商 **瑞生洋行**
啓者本行由外洋運來金山松木大小方子厚薄板片以及樓板並有道木性皆堅固貨高價廉賜顧者乞至本木廠面議
營口西街潮溝西本行主人啓

代代木烟公司
本行專售日本官造紙烟星象牌（斯達）櫻花牌（捷利）百合花牌（利利）均已馳名內外茲特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌（隆活來福）清香撲鼻佳美適口而價值極廉諸君欲購可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元探買庶不致誤謹此廣告

飯塚工程局 材料出售
啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價值格外從廉克己凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞 本主人啓

森病院
一診察 自午前八時至正午十二時 自午後三時至午後五時
一往診 午後三時より、
△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
姙婦の入院を諾す（取扱主任産婆大道しけ子）
院主 森 鑄
醫長 鈴木昌平
營口永世街（電話一五五番）

新荷着

東店綏定門橋畔 西店第一市場前 **金升洋行**（電話六十八番）
アエ サビ ヒス 兩麥酒會社代理店

宮崎工程局
電話一七七番
宮崎宗朝

今在天津車站拾得皮包壹個內有洋錢頗沉重如有失主即到營口大德通票號說對其內數目即予領取不悞
喬仲吉謹白

東營口郵便局東隣 ●**島田洋服店**●
新民屯停車場前 ●**同支店**●

一關內外盧漢鉄道貨物運輸 但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ヘ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候
一海關手續 車務取扱
一鈔關手續 但弊社代理店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ事務取扱
一船舶荷物取扱 但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候
營口西北街第二七二號
大清通運公司 營口支店

Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.
料 一長期連揭減價面議
發行所 清國營口中盛街 滿洲日報社（電話二九番）

隆慶公司
開設在東閘門外自有碼頭恬豊木局以西南近馬路德記木局以北發售唐山大小塊砟子貨美價廉裝卸舟車極便凡賜顧者請認明招牌庶不致誤謹啓

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿州一手輸入發賣
江副洋行
營口永世街

各種材木 廉價大販賣
塩川商會
營口永世街二本町

和泉洋行
本店開設在營口重盛街、發賣毛布、手巾、小布衫、鏡子、錢袋、帽子、洋蠟、小刀及其餘各種雜貨一概俱全價值格外從廉克己、凡 中外仕商賜顧者、請速臨爲幸、
大阪府堺市熊野町 藤原謹啓

田中牛莊分莊
啓者本舖開設於東營口綏定門外經大阪九三組精造東洋緊身洋式襪子羊肚手巾各樣新近進口來的貨寄於本舖代售格外從廉 賜顧者請光臨本舖面閱是幸
田中牛莊分莊謹啓

材木 荒物 販賣
秋田洋行
營口永世街第一八四號平野町
本店 下關 秋田寅之輔商店

日商 **東來醬園**
本醬園開創在營口双橋子南有年係請大日本著名工師自造日本醬油所造醬物料專選上等麥豆壘經沙漏之水寒熱適度加意製出故其色麗質淨味美氣芳可以供上等烹飪之用其價值甚廉非尋常市油所得而及蓋用市造之油烹物之費多而醬梅之效少若用此油則醬味調和必請不特于衞生之道受益不少衆爲厚生利用之妙品也賜顧紳商請嘗試之立知本醬園所言非誇張之談矣
本園主人謹白

代理 **道勝銀行**
啓者本行代理道勝銀行匯兌以及押款借款等項格外公道如蒙賜顧請移玉本行帳房面議可也
德商 瑞記洋行代理人謹啓

貸金業
確實なる擔保品には精々勉强安利を以て御相談に應す
南永世街百二十七號
質屋 富田茂治

東京電報

●西園寺内閣の成立

（一月七日東京特別通信員發電）

今明日の中にも決定せらるべしと傳へられたる新内閣役割は愈々決定し昨日を以て其親任式を宮中に行はせらる其役割左の如し

總理大臣 西園寺公望
内務大臣 原敬
司法大臣 松田正久
陸軍大臣 寺内正毅
海軍大臣 齋藤實
外務大臣 加藤高明
大藏大臣 坂谷芳朗
遞信大臣 山縣伊三郎
農商務大臣 松岡康毅
文部大臣（兼任） 西園寺公望
内閣書記官長 石渡敏一

●日清協約の可決

日清協約樞密院にて可決せり内容は本定約三條副約定十二條より成る

（以上昨日號外再錄）

倫敦電報

●日本俘虜通過

汽船バンクーバー號は露國より歸還する九百三十六名の日本俘虜を乗せてポートセードを通過せり

●ロ提督の論文

ロジエストウエンスキー提督は當局者の許可を得て一論文を新聞に掲載せしが當局者は其論文の主旨に同意せしにあらず特に該論文は撿閲を經ずして掲載を許可せしものにて英國艦隊に關する事の如きはロジエストウエンスキ提督一個の私見なりと云ふ

●叛亂未だ鎮定せず

露國通信は全國各地に容易ならさる騷擾あることを續報す是れ叛亂の未だ鎮定せさることを示すものなり

●銀行家の貨幣制度改善演説

著名なる銀行家シエツフ氏は紐育に於ける演説中貨幣制度を改良し貨幣をして一層復舊自在のものとなすにあらされは未曾有の大恐慌來るへきを豫言し大感動を惹き起せり

（以上一月五日發電）

●モロツコ會議の米國代表者

モロツコ會議に列席せる米國代表者は獨佛兩國の軋轢を阻止し門戸開放主義を維持すべしとの訓令を受けたり

●エ卿と清國勞働者

エルジー卿が南亞殖民地に清國勞働者を輸入するとを中止せしは法律違反の所置にしてかゝる權能は獨り樞密院の有する處なりと云ふ法律顧問の意見はスタンダード新聞に依て轉載せられたり

●ボルドン氏と兵役制度

同新聞は陸軍卿ボルトン氏が五年の兵役と七年豫備の制度を復舊する見込なることを報道せり

●總選擧の亂暴狼藉

總選擧は亂暴狼藉を極めバルフォアー氏がマンチエスターに於て演説せし時の如きは幾度か暴害を受け遂に警官の手を借りて暴害者を退場せしむるに至れり

●佛國主相と露公債

佛國主相ルベー氏は露國の代表者に對して今日三千二百万磅の露國公債を賣出すは現下政治的情況に照して大に不利なる旨を申渡したり

●グ氏の演説

ヘーバービグラツトストーン氏はリードに於て演説して曰く今日直に五萬の清國勞働者をトランスバールより歸國せしむるは財政上及工業上に大混雜を引起す恐れあるを以て政府は成るべく衝突の少なからんとを期し徐々に現状を變化せざるへからずと

●英國の輸出入

商務局の統計書に依れば最初一年間に於ける英國輸入は五億六千五百萬磅にして前年度に對し千四百廿五萬磅の増加を示し輸出は三億三千万磅にして二千九百三十三万三千磅の増加を示せり

（以上一月六日發電）

雜報

●貴族院の頌德表

過日貴族院に於て議決したる頌德表左の如し

貴族院議長臣德川家達誠恐誠惶謹で
叡聖文武天皇陛下に上奏す
伏して惟るに
陛下 列聖の鴻緒を承けて 先皇の貽謀を纘き中興の基を開き維新の治を敷き登極以來三十有八年宵旰政に勤めたまひ皇化日に躋り國運月に隆なり顧ふに其の間屢々内外の多故を經と雖も謀深遠善く機宜を制し國家事ある毎に常に能く時難を撥し益々聖謨の恢張を致したまふ曩に東洋の大局に關し露國と釁を開き干戈相見るに至る我が陸海の師大命を奉じて進戰す陛下神算妙籌を帷幄に通したまひ智謀忠勇の將士力を閫外に盡す戰局の大に用兵の衆き前史未だ見ざる所にして交戰二十月に亘り旌旗の指す所砲火の加ふる所必ず勝たざるなく海に陸に彼の雄大なる艦隊を殲滅し陸には滿洲各處の强敵を掃盪して之れを北方に追逐し復た振ふこと能はさらしむ誠に曠古の偉績無前の大功なり今や講和已に成り東洋の大勢全く定まり皇威八紘に震ひ國光四海に耀く中外誰れか盛德を瞻仰し鴻業を謳歌せさらんや臣等斯の盛事に遭ふ踴躍歡抃の至るに任ふるなし爰に恭んで表を捧け奉頌す

●獨逸の對清

獨乙政府は曩に北清直隷の撤兵を提議し又其極東艦隊をも召還するの命令を發したる由なるが是等の事たる固より誠意に出でたるにあらず他日新利權獲取に資する所あらんとせしものなるが其後清國の輿論は獨乙政府の希望と背馳し北京外交界は却て斯の政策に對し疑を懷く者少からさるに至りたるを以て獨乙政府も暫く形勢の推移を觀望し何等かの口實を以て撤兵及び艦隊引揚の實行を中止せんとしつゝある際昨今上海に於て會審衙門事件あり外國人の危害を被る者少からさりしを以て獨乙は之を口實として前議を撤せんも知れずと云ふ

●一種の恐日病

ニユジーランド大臣エドワード、エークフヰルド氏は日英同盟は英國大殖民地に其効力を及ぼすを許さず、ジブラルターより香港威海衛に至る間は共に其利を見ると雖も加奈陀は日本人の移住を悦はす英領古倫母は日本人を冷遇し濠洲は現に五十語の外國語を知らさる日本人に對して上陸を拒絕し以て日本人の殖民に反對し、ニユージーランドは支那人と同一の待遇を日本人に加へさるも殆ど禁止税とも云ふべき重税を課し其移住に對して一切の抗争を圖れり况や亞弗利加殖民地も亦日本人を冷遇せり况や日本の戰捷以來日本の進行に注意し今より二十年以前には露國に對して備へたるも今日は日本の巡洋艦に對して注意を怠らさるに至れり加ふるに清國扶植を以て自己の責なる如く感じつゝある日本人は清國人より同階級の人種と認められつゝあるを以て日本人が英本國の同盟者たるの故を以て好遇せは支那人も亦日本と同待遇を得んことを望むに至るや必然の勢なり日英同盟は英國の全部殖民地に其効力を現はすは倫敦内閣の近視眼的政策にして吾人は全然反對の意見を表白するものなりと言明せり

●韓國鐵道經營

三十七八年戰役に於て我野戰鉄道監理部は韓國鐵道に關し特に臨時鉄道監部を設け山根少將鉄道監となり之が任に當り京義、京元兩鉄道の敷設、經營測量等を掌り居たるが今後の同國鐵道經營機關に就ては當局者間にも種々の議論あり、未だ決定の運びに至らさる由なるが聞く處によれは統監の下に鐵道部を設け鐵道に關する諸般の事務を掌らしむべしと云ふ

●佛大統領候補

佛蘭西共和國大統領の改選に就き二人の候補者指名さる其の一名は前印度支那總督ヅーメー氏他は理任首相兼外相ルーヴヰエー氏なるが現大統領ルーベー氏の任期は明年二月十八日を以て滿了す

●清國使節遣露説

清國政府は我か全權との交渉落着せし上は北滿洲撤兵問題等に關して其使節を露京に派し更に露國政府と交渉する所あるへしと傳へられしか既に其使節として慶親王以下數名の内命ありし由ロイドは報せり

●軍資金の締切に就て

開戰以來軍資金獻納高は十一月末日迄に實に二百三十二万六千七百十三圓餘に達したるか平和克復後も尚は獻金申出つる者尠なからさるを以て出征軍隊の悉皆引揚げを終了する迄は締切らさる筈

●勸業博覽會延期

勅命を以て明治四十年に開設すへき第六回内國勸業博覽會は之を延期し其開設期日は追て之を定むる旨公布せり

●統監府附武官官制

韓國統監府には武官を駐剳せしむる事と爲りたるに付目下其筋にては統監府附武官々制の制定中なり多分陸海武官中の少將若くは大佐を以て統監府附武官と爲す事と爲るへし

▲露國俘虜の横暴

習志野收容の俘虜は歸國期の遲きを憤り昨今不穩の模樣あり現に去る二十三日の如き晝夜四回便所其他に放火し翌二十四日は麵麭製造所に放火したるも孰れも番兵の消止むる所と爲りたるが留守第一師團長は一層嚴重に取締を爲さしめん目的を以て態々同所に出發したり

●大阪商船の増資内決

同社は過日の重役會に於て前期繰越金より三十万圓を顚補し本期も一割の配當をなす事としたるが尚同日五百五十萬圓の増資をも内決し一月の總會に提出する事とせりと

●同胞俘虜の神戸歸着期

露國に於て解放されたる日本俘虜搭載船ヴアンクーバー號及びカムブロマン號は一月二十日頃神戸に着し歸還者はすへて神戸港より上陸すへしと

●滿韓行小包宛名

從來滿韓にある我軍隊に宛て差出す郵便及ひ小包郵便は單に軍隊名のみを記しその所在を記すことを要せさりしか自今内地より韓國にある軍隊に宛て發送する小包郵便物には必すその所在地を記すことを要することゝなり通信局より各通信官署へ通知したりと

●京濱間二十七分

鐵道作業局か京濱電氣鐵道全通の爲計畫せし京濱間最大急行列車の運轉は愈此程より實施したるか成績至極良好にして二十七分間にて到達し得る事とて歲末に際し兩地の人民便宜を感する者多し

●鐵嶺通信（三日發）

筆山生

▲鐵嶺の女人禁制 は僅かに邦人經營を委縮せしめしに加ふるに軍凱旋の計畫以上の結果を奏し來れるを以て前途營業期限の短縮せるを氣搆へ一層悲觀の狀態にあり既に借入たる家屋の修繕すら遲々として進ます各人軍憲衙門に抵りて其解禁期を問合すもの比々皆然らさるものなきの有樣にしてせめては短期に於て巨額の利益を獲収せんとせるものゝ如しと云へり加ふるに鐵嶺堆積の貨物は既に多額に及び部隊酒保を除く外邦人所有の日本酒の如き約五千餘樽の多きに及び其他の雜貨も夥しく相當の賣行ありと雖も前途は稍々不安の傾きあり其仕入につきては躊躇せるものも見受けられたり

▲馬賊の出沒 につきては當事者夫々賊匪との妥協を了し北方轉送の貨物につきては百斤六圓の保險料を支拂ひ安全に運退するの機關を設け居りて此地より長春吉林に發送するもの一日約一百臺を下らず北地各都市に於ける貨物は畧需給の平均に近つきつゝあり食鹽の如き清人の手によりて送致せしもの甚多く現に其相場は大下落を告け來れりと邦人の冐險者は吉林長春に入り込めるもの既に二百を超へ其多くは利權の探險者にして亦露軍欠乏の物資を供給せんとするものあり幾多の危險を冐して洋酒其他の貨物を運致し直接販賣を試みんとするものありと雖も彼等は直接邦人に接するを好まさるもの、如く餘儀なく地方土人の露軍に供給せるものに賣渡し相當の利益を獲得せるものあり亦不幸露軍の驅逐に遇ふて引返し昌圖に於て販賣し欠損に終れるものあり目下十分の成効を期し能はさるものありと雖も猶是等の徒は北行を企圖して止まず旅大營の三地より續々入來しつゝあり露軍の滯陣久しきに渉り後送の期近からすとせは例の反徒は此方面一帶に蜂起して冐險邦人の生命財產は爲めに迫害さるゝに至ることとなしとせすと危憂するの士尠なからす

▲軍政署移轉 は去月廿六日實行せり地は南門裡にあり舊縣糧捐稅局にして家屋は稍々宏壯軍政衙門の態を爲せりと雖も他地方に比して猶遜色あるは憾遺とす是此地の規模小に軍旅の爲め其大なるを徵發し居るに基因せるなり地方紳董は能く軍政長官川崎氏の指導を德とし些の怨言を聞かす官民一致して地方發達を企画し中央市場たる舊態に復せしめんに盡瘁せるを以て其成果は着々現實しつゝあるを見る

●旅順船渠の修繕終了

旅順の船渠は攻圍軍の砲火により多大の損害を受け且船舶の其入口に擊沈せられたるため全然使用する能はさりしか旅順口鎮守府にては過般來沈沒船を取除け引續き修繕工事を了したれは今後は六千噸以下の艦船を入渠し得へしといふ

●大連灣航海の繁忙

大阪商船にては曩に秦皇島航路を計畫したるも陸上連絡不便の爲め遂に之を中止し北清地方行等大連以北の貨物は大連にて揚陸することゝし又た大連灣浴岸所有權、航海補助の增額計畫等の爲め同地航船は今後益々頻繁なるへき形勢なりといふ

●郵船大連航路開始

現今大連航路に從事せるは大阪商船會社と過日開始の尼崎汽船とのみなるか日本郵船會社にても今春社船の解雇となるを待ち同航路を開始する由因に尼崎汽船の同航路は神代大有太湖の三隻にて本年より月五回の定期航を勵行す可しと云ふ

●大石橋の建碑招魂祭

大石橋に於ては豫て同地兵站司令官步兵中佐岡島均氏の發意により盤龍山の山腹に最も形勝の地を擇び戰死者の忠魂紀念碑を建設中なりしが此程全く竣成せしを以て去月二十八日午前十時盛大なる建碑招魂祭を擧行せり當日營口よりは本願寺出張所本部寺本布敎使遼陽よりは本願寺慰問俱樂部の大内竺の兩布敎使出席し最も莊嚴なる法會を營み式中岡島司令官の弔詞あり近來の盛況なりしといふ因に同碑は花崗石を以て造くり繞らすに鐵柵を以てし駐在部隊の兵士が人手を假らず非常の苦心を以て建碑の勞に任し數月を經て始めて竣りたるものなりといふ忠魂も定めて地下に瞑するを得んか

●郵便物の發着に就て

當地郵便局に於ては營口牛家屯間布設の輕便鐵道により郵便物遞送開始の計畫を以て過般來關東總督府郵便部と種々協議中の由なりしが去る五日より愈々之が實施を決行し其結果滿洲内地及び本邦發着の郵便物は從前に比し十時乃至十二時間の速達を見るに到りたりと因に右發着時刻は左記の通りなりと云ふ

	發送時到	到着時刻
毎日	午後一時四十分	午前五時五十五分
仝	午後八時三十分	午後〇時三十分

●十二月中の大連出入邦人

十二月中に大連へ渡來せる邦人數は男五百六十九人女三百十一人計八百八十人、出港せるは男三百四十八人女四十人計三百八十八人にして渡航者の出港者より多きは男二百二十一人女二百七十一人計四百九十二人なりといふ

●川村大將の着營

豫報の如く鴨綠江軍司令官川村大將は昨日着營せられたるが與倉長官は昨夜盛宴を張つて大將一行を招待せられたり其詳細は明日の紙上に報道すへし

●似非宗教家取締の必要

近時當營口に種々の肩書を以て宗敎家なるもの入込み來り居るが彼等の中には管長の特派若くは誠心正意を以て布敎するものもあらんが間々山師的僧侶の混入するあり或は酒色に沈溺し或は宿屋の喰ひ逃を爲すものあり或は一時的に駐錫するものあり所謂玉石混交の狀態なれは眞正の布敎使等は大に閉口し居る有樣なり爾れば今後當地に於て善男善女を濟渡せんとする宗敎家に對しては相當の取締を爲し其宗派管長の紹介狀を持するか若くは其履歷に於て恰當なる宗敎家と認定すへきものに限り在住民布敎を許可する方針を採られんことを切望す云々と某氏は語れり

●園碁大會の盛會

豫報の如く第三回園碁大會は一昨七日正午より祇園閣に於て開催せり會するもの無慮卅餘名にして互に決戰の結果一等賞に内藤二等賞川畑三等久間四等赤尾五等古賀六等佐藤七等太田の諸氏にして是迄なき盛會なりしと因に來月より例會として毎月一回開會の由

●淫賣の身の果

古來英雄の末路美人の最後は何れ哀れの終りをなすが、ならひと聞きつるが况や白首の最後何れ因果應報斯かる身になるが常なるべし茲に原籍山口縣大島郡生れの田中ミツ(廿二)といふ女は昨年の四月住みなれし故郷を飛出して流れ行く衛は何所、神戸の某軸木工場の女工に住み込みしが其後七月頃或る人に誘はれ當營口に來り南永世街某雜貨店の飯炊に雇はれたるも育ちが育ち故に堅氣の家に辛棒の出來よう筈なく同家を飛出して元神關街のチヤンコロ合手の某淫賣屋に住込み情の切賣中をその頃馴染重ねし某運送店の番頭山本重作なるものに軍票十六圓にて身受せられ暫らくは夫婦物珍らしさの世帶を持ちしが例の尻輕、去月廿六日同人方を逃走して遼陽奉天をさまよふて居たが又もや當地に立ち歸り今度は西北街の東屋とかに居る役者上りの岩西と云ふもの、媒介にて東海樓近場のうどん屋に奉公なし居たりしものなるが同人の父芳吉はいたづら娘の事のみ心に懸け遂に去十一月頃世を去り目下親獨り子獨りの大事の母親の消息さへも知らさる由なるが其後彼れミツは身体ところ〳〵痛みを生じ堪へ兼ねて某醫師の診斷を受けし所全身梅毒並に子宮淋尖形コンジロームと云ふ聞くも恐ろしき病氣に罹り居る由なるが世の子女を持てる父兄はその家庭に注意し亦壯年諸君は斯かる婦女に接近せざるよう老婆心如斯

汽車

▲上行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
新民屯至溝邦子	上六、〇〇	上九、五七
營口至山海關	上八、二〇	下六、〇〇

▲下行車時刻表

車站名	開午點分	到午點分
北京至山海關	上八、〇〇	下六、二〇

野戰鐵道普通輸送列車發着時刻表

大連奉天間 下り列車

驛名	發着時刻	
遼陽	着午後三、五〇	發四、五五
大石橋	着一〇、三二	發一一、三五

上り列車

旅順 發午後 … 大連 着 …

天 營口地方 自昨日午後六時 至本日午後六時

●本願寺の慰問事業(四)

▲鐵嶺慰問部

當慰問部は明治三十八年七月廿六日鐵嶺停車場北方に開設し間口十五間奥行五間の家屋を娯樂室に宛て庭前に在る二間四面の煉瓦家屋を佛室とし兵站病院又は附近の各部隊に於て死亡せられたる殉國者の遺骨を安置し朝夕讀經供養をなす娯樂室には左記の物品を備へ附けあり適宜に使用從覽せしめ又は寄贈をなす(以下表は七月廿六日より十一月三十日迄の分)

新聞　十五種　書籍　三百八十八冊
雜誌　十種　雜書　百五十六冊
將棋盤　二　碁盤　二
投球盤　一　活畫函　二
オルゴル　一　笛　二
尺八　一　手風琴　一
擊劍具　一組　理髮器　二
幻燈　一　蓄音器　二臺
書箋　封筒
繪葉書　機械休操具
郵便函　一　爲替貯金手續用紙

部員　本派本願寺派遣布敎使常在二名臨時一名在り

入場時間　毎日午前九時開場午後十時閉場

例會及び來場者數　例會は毎月六回三八の日午後七時より開始十時閉會一回の來場者平均一千名七月より本月迄發會式及び臨時會を合して廿六回人員計二万六千名當夜は精神講話一席餘興として幻燈蓄音器を使用す

此外本派本願寺法主猊下より出征軍隊慰問の爲め御寄贈になりたる活動寫眞當部及び附近に於て開催せしこと前後九回主として後方勤務と凱旋將士の爲にして毎時來場者一千人乃至五千人に及へり

書籍類貸出し　一日平均七十冊
書箋封筒寄贈數　計三千五百通
繪葉書寄贈數　計一万五千枚
信書代筆依頼者　計三十五名
附近諸部隊へ出張講話一ヶ月平均十五回計六十五回
平時慰問部に於ける個人其他少數團隊に對する臨時法話　一ヶ月平均九回
病院又は各部隊へ吊祭應請出張　一ヶ月平均十回
兵站病院に於ける死者の供養讀經　一ヶ月平均百九十回計七百七十回
但し個人又は數名分合併することあり

●營口の馬車數

營口の繁榮は陸上に於ける馬車と水上に於けるジャンクの上に築かれありと稱ふる位なれば其の馬車の往來の頻繁なるは誰人も想像する所なるが今ま營口軍政署に於て取扱ひたる最近の調査を觀れば寧ろ想像に超すものあり左に其の調査表を示すべし即ち以て營口研究の一材料たるに足らんか

十月廿一日より末日迄
有稅……
無稅……　合計一、七一二輛

十一月中
有稅　一二、九九〇
無稅　四一九　合計一三、四〇七輛

十二月中
有稅　一六、〇三三
無稅　二、七四三　合計一八、七七六輛

以上合計　三三、八九五輛

因に以上の表中無稅とあるは營口の十淸里以内に運搬する馬車の謂にして主に牛家屯行なり尙は有稅車輛の稅金は目的地の遠近積載貨物の輕重に係らず一輛凡て一圓なり

以上は表示せる如く昨年十二月迄の車輛數なるが更に昨今に於ける景況を聞くに淸國の年末なれば頗る多く一日の平均八百五十輛より九百輛に至るとなり

●氷舟營業取締規則

第一條　氷舟とは關內より關外に關外より關內に及び營口と牛家屯流車との連絡を保つ等の爲め遼河氷上を往復する人物物質を積載する氷舟を云ふ

第二條　氷舟を營業せんとする者は左の事項を具し軍政署に出願免許を受くへし其增減變更ありたるとき亦同し
一、舟子の族籍住所氏名年齡
二、乘舟上陸地點
三、舟賃の定額
四、使用舟數及其舟積

第三條　氷舟の營業する時間は毎日午前六時より午後六時迄とす

第四條　氷舟及舟子は二ヶ月毎に一回憲兵の檢査を受くべし

第五條　氷舟營業者は營業に從事中常に免許鑑札を携帶すへし

第六條　氷舟營業者は故なく舟客の乘舟及荷物の積載を拒むへからす

第七條　營口に於ける氷舟發着地點及集合地は左の箇所とす
第一集合地　元撿疫所附近沿岸
第二集合地　太古洋行附近沿岸
第三集合地　第三派遣所北部沿岸
第四集合地　水路分遣所附近沿岸

第八條　氷舟發着地點には軍政署の規定したる賃錢表を揭載す

第九條　發着地點には軍政署の指示する乘舟上陸場所及び高二丈以上の旗柱を設け晝間標旗夜間は標燈を揭くへし

第十條　氷舟は軍政署の定むる標旗を揭け夜間は標燈を揭くへし

第十一條　營口市街以外の地に籍を有する氷舟と雖も營口市街に接續する爲め遼河氷上に於て營業をなすもの亦本則に準す

第十二條　氷舟營業者にして營口以(外假令は牛家屯其他の方面)の地方に氷舟にて物資を搬出せんとする者は馬車營業者取締規則に準し登錄手數料氷舟一隻に付銀五十錢とす

第十三條　本則に違反したるものは銀百圓以下の罰金に處し又は營業を停止することあるへし

附則

第十四條　本則は發布の日より施行す

●營口の屠畜頭數

軍政署の調査に依れは昨年中營口に於ける牛、羊、豚、馬、騾、驢等の屠殺總數は實に二万五千三百八十五頭なり、即ち左に其の月別表を揭け以て詳細を知るに便せん

卅八年中屠畜頭數年表

月　種類	牛	羊	豚	馬	騾	驢	計
一月	一六七	一七〇	二五〇三	二三	四	七	二八七四
二月	一五二	二九	五八八	八	三	三	七八三
三月	一八二	五七	一、一三六	三二	八	四八	一四六三
四月	一三一	八五	一四五八	二二	七	二八	一七三一
五月	六八	六八	一五七四	八	三	七	一七二八
六月	七三	三〇三	二〇〇二	五	六	五	二三九四
七月	六八	七三八	九五五	八	九	四	一七八二
八月	八三	六一二	一一四四	一五	六	三一	一八九一
九月	二〇六	二七四	二三四八	四七	三	七八	二八六五
十月	二三五	二四五	一八二八	四五	二	二七	二四二一
十一月	二四四	二三五	二〇四九	五八	三	七九	二六六七
十二月	一九二	三五三	二二三六	四〇	三	五二	二七九六
計	一八〇一	三二五九	一九六六三	三一一	一一四	三七九	二五三八五

尙ほ調査主任に付て聞くに以上の表中牛は其の斤量百五十斤より五百斤に至り稀には八百斤に及ぶ者もあり而して多くは閹牛にして去勢術夙に開け其成績良好なり又た其肉質に於ても優秀の者多し

更に産地に付て調ふるに最も多きは蒙古地方にして天津及び山東省邊よりも輸入せらるゝ如しと云ふ

廣告

諸鐵工製作
鑛山船舶機械鐵工
輕便鐵道附屬鐵工
土木建築用鐵材料
其外鑄物諸般
（營口シツプ定商會東門街）
川喜鐵工場

歐米各國最新流行形
西海洋服店
永世街一四一(森病院三軒目)

寫眞　永清
奉天府　大南門裡路西

會席料理　三日月
營口警務課前南に入る

御旅館兼待合所
並にうどん、そば
今般大々的勉強を以て右營業仕候間御乘降の都度御休泊被下度奉希候
牛家屯停車場前　若松家
各位樣

特別室落成披露
金城ホテル　旅館部
藝妓　仲居　新來披露
特に藝妓は生粋の江戸っ子
金城館料理部

旅行中に付年始の禮を欠く
營口高濱洋行　手塚健次郎

營口永世街　營口印字局

新玉の御慶芽出度申納候
營口　高砂ホテル
此度新たに内地より藝妓仲居十數名を連れ參り候間御光來の上御評判の程願上候　草々
營口　高砂

奉天日本旅館
瀋陽館
家屋宏壯清潔　接待優遇懇切
開業　全時=開放
奉天小西門外大街路北

●アルボース石鹸多數着荷
材木賣藥
書籍雜貨販賣
埃及煙草
木材、藥品、書籍、煙捲、各種氏貨出售
營口永世街七十四號
日清公司

雜貨卸商
在元營口神廟街
關東公司雜貨部

御旅館
奉天　小西邊門內路北
茂林館
追ァ滿洲各產物毛皮類ノ求ニ應ズ
家屋宏壯接待優遇

和洋會席御料理
一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉強仕候
二奉天支店も本店同樣に大勉強仕候間御光來被成下度候
營口永世街二本町　日本館本店(電話百三十番)
奉天小西門外大十字街北入橋町　日本館支店
各位樣

今般秋吉萬作義都合有之解雇致し松田萬吉夫妻をして業務に從事せしめ清潔を旨とし萬事一層注意相加可申候間倍舊御愛顧程奉希候
三十九年一月
永世街二八(電話一四六)
鶴の湯主人敬白

大連東洋ホテル　大連鐵道停車場附
大連東洋ホテル　近民政署前通り兒玉町に在り
大連東洋ホテル　四階建にして而も高地に建設しあるを以て大連港灣の山水及大連市街の光景は一望の下にあり
大連東洋ホテル　和洋客室の設備あり内外貴賓の宿泊に適す
大連東洋ホテル

營口　御會席料理　既に溫泉開業
一力
營口永世街　堀万助

旅館　東京樓
萬事勉強乘車乘船好位置
營口中央市場前
店主　熊田兼次郎(電話百七十八番)

西洋料理仕出し御需に應ず
即席和洋料理　東京樓支店(電話四十四番)

北京　扶桑旅館
東單牌樓大街路西
客室清潔料理鮮新

御旅館
天津　芙蓉館
駐屯軍御用　並西洋料理
(電話四十一番)

Yano & Co.

矢野洋行

Telephone No. 137 電話一三七

諸雜貨、家道具類、呉服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段も極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

銘酒 **白鶴**

新荷着大安賣

新年儀式用品

雜貨商

營口元神廟街 **井門洋行**

遼陽西門外 **同支店**

御菓子製造

○蓬萊豆○青梅○輕燒豆○栗納豆○大綠○松風煎餅○羊羹○朝鮮飴○生干菓子種々

營口永世街乙第二十八號

仁木商店

あさだあめ 浅田飴

本家 日本東京神田鍛冶町 堀内大藥房

特約大販賣 營口永世街 東瀛大藥房

肺癆痰喘氣急傷風痰嗽小兒風痰病後體弱肺病一切立見奇功

◎たんせき一切◎肺病の特藥◎ひきかぜ◎病後のよわり◎弱き人の滋藥

標子

木板

料木

發賣

營口青堆子

清水寧木局

澤龜 醇良風味芳醇

札幌ビール 並ニ 朝日ビール

政府專賣口付紙卷煙草

朝日 大和

酢 醬油

瓶詰樽詰

菓子 罐詰色々

洋酒類 取次販賣

大日本帝國醫科大學模範藥局御用命

攝津灘石崎合資會社釀造

醇良清酒 **澤之鶴**

滿洲特約大販賣

(周) 裕和盛號支店

清國營口西北街

電話八十一番

裕和盛販賣品目

○酒保用品雜貨
○日本酒澤之鶴樽詰瓶詰
○洋酒食料品各種
○和洋煙草各種
○菓子類各種

裕和盛本支店所在地

○本日本長崎梅香崎
○支店淸國、芝罘
○支店韓國京城、旅順、鐵嶺、仁川、木浦、

裕和盛は清商中日本通の本張! 澤之鶴は鉄美天ある定に評既!

SPECIAL LIGHT

(PILESNER BEER)

スペシャルライト賣出し

スペシャルライトはピルスナビールにして此種のビールは日本に於ては弊社始めて之を釀造せりスペシャルライトは高價を拂ひて元料を特選せりスペシャルライトは其味輕くして高尙なり

釀造元 **大阪朝日麥酒株式會社**

營口發賣 **關東公司雜貨部**

謹賀新年

今般永世街通平野町筋へ轉居し一層安價に販賣致候間奮に倍し御用命の程奉願上候

博文館營口代理店

書籍、銘茶
賣藥、雜貨

商 大阪屋

(工)

營口元神廟前

飯塚工程局材料部

今般弊局土木建築材料品ノ各產地ト特約ヲ結ビ品質ヲ撰ビ廉價ヲ以テ間多少ニ不拘賣御仕引立之程奉希上候殊ニ木材ハ北海道天鹽木材株式會社ト特約ヲ結ビ巳ニ濵船ブリマ號ニテ七千余石到着致候間御望ノ寸法ニ製材シ御高需ニ應シ可申上候

木材ノ種類 (種々)

一北海道產松大角材 同小角(四寸角長二間モノ) 同寸五分角

長二間モノ 八分板 四分板 横桂

唐山灤州產 石灰 石材 敷石 砕石

天津 營口產 煉瓦 種々

雜貨

醬油 味噌 清酒

營口西北街

阪神組

滿洲大販賣所

營口出張店は結氷中引揚ゲ候ニ付御用向ノ御方ハ遼陽出張店へ御來店アリタシ

遼陽停車場前

池上出張店

新荷着急告

御徳用品

○食料罐詰

○塩魚干魚鰹節

○乾物色々

○亀甲万印醬油

○赤白味噌

○菓子類数種

○銘茶各種

營口永世街警務課前南へ入

林屋洋行

優等清酒

諸罐詰
雜貨類
菓子類

卸賣

三成組

釀造發賣元

合名會社 **宅**

本店 大阪府堺市九間町

小樽支店 北海道小樽湊町

臺北支店 臺灣臺北街書院

基隆支店 臺灣基隆街石牌

臺南支店 臺灣臺南街下南河

函館出張店 北海道函館區辨天町

遼陽出張店 清國遼陽城內西街

大連出張店 清國大連監部

營口支店 清國牛莊港東營口

宮門抄

十一日

外務部 欽天監 侍衛處值日 正白滿引見十一名 正紅滿二十六名 廂白滿十二名 廂藍滿十名 內務府十九名 阿克東阿請假十日賞假五日 侍衛處奏派管宴大臣

派出 順王 又奏派口外賜奠 派出 榮公達壽 景運門奏派更換值年

派出伊立布 徐會澧遞遺摺

召見軍機

上諭恭錄

十一日

上諭兵部尙書徐會澧持躬謹慎學問優長由翰林入直上書房洊陟卿貳迭掌文衡擢任尙書並兼管順天府府尹事務宣力有年克勤厥職前因患病賞假調理遽聞溘逝軫惜殊深加恩着賞給陀羅經被派載濤帶領侍衛十員即日前往奠醊賜尙書例賜卹任內一切處分悉予開復應得卹典該衙門查例具奏伊嗣子一品廕生徐桂軫着以郎中用用示篤念耆臣至意欽此

上諭閩浙總督着端方補授未到任以前仍着崇善兼署欽此

上諭湖南巡撫着龐鴻書補授共瑞着補授湖南布政使湖南按察使着顏鍾驥補授欽此

論說

論各省添設法律學堂（續）

且夫法律之關係於國家者大矣。何則。國家者。以一定之土地。一定之人民爲基礎。而唯一之統治權之主體之團体也。國不可無統治權。無統治權。則雖有一定之土地人民。猶不得遽謂之國家。蓋以多數人民。斷無衆人一体之意志。與一体之行爲也。今有人羣於此。同其言語。同其風俗。同其籍貫。而於共同之利害。共同之好惡。必協力同心。互相扶持。互相保護。則學術上所謂社會之說也。苟其好惡相反。利害各異。則東離西乖。相爭相犯。而望次第秩然。有條不紊。以一定之意志。爲一定之行爲。以達共同生存之目的。不可得也。而國家者。有獨立之統治權。先立一定之意志。而以一定之行爲。命令人民。使之服從。無相踰越。以是億兆芸芸。盡歸一致。始終相貫。而共同生存之目的於是乎達。國家於是乎可久可大。而奠磐石之安。無一日無法律也。即無一日無國家。無一人不受法律也。即無一人不愛國家。此東西文明國。所爲以法律爲專門學。夙夜研究。不憚著書立說。以發明其作用。確定其權限也。按各國法律。均有公法私法之別。公法之極端。爲國際公法。其本位爲憲法、行政法、刑法、刑事訴訟法。私法。則專指民法商法而言。而介於公私法之間者。則爲民事訴訟法。由法以定律。由律而用例。其次第未可乱也。我國現當憲法萌芽之始。竊以爲法律之宜比照各國。斟酌而損益者。大綱有四。一爲國內之民。互相交涉之法。其部分屬於民法商法、民事訴訟法。此法本中國所已有。但當証之各國法律。精益求精。使之强不凌弱。衆不暴寡。蓋制定法律。總以公共之利益爲目的。故舊法多不如新法。以新法合於公共利益也。新法早一日施行。即民人早在一日利益。果爲衆人。則即有害於一人。不顧也。然公共之利益。又不能不讓步於一私人之既得權。設侵害其既得權。則一私人之生命財産不固。甚至釀成全社會之禍。新舊法所以又宜互用也。羅期日、苟法律剝奪人民之權利。則社會不能存在。蓋言此也。一爲國內之民。對於朝廷遵守之法。其部分屬於行政法、刑法、刑事訴訟法、民事訴訟法。中國之人。素以名分爲重。舊律亦盡善矣。然處今日競爭最劇烈之時代。振興民氣。固結民心。尤賴法律之精神。以維持於不敝也。一爲國內之民。與國外之民交涉之法。其部分亦起於民法。商法、而牽制於行政諸法。至於國際公法。中國於交通之事。始則禁之太嚴。繼則縱之太寬。參用各國律以求其中道。而吾民之受損於外人。庶可挽回也。一爲國外之民。對於中國而應遵守之法。如接濟中國匪徒槍械。煽惑中國民人心思。實大妨害中國之安全。即令事機敗露。其罰又輕不足以儆將來。自宜增修數條。以杜勾結也。此四者。實改訂法律之要旨、而即各學堂所宜討論之問題也。今既於各省添立學堂。其條目自繁。其大綱必有不外於是者。日本自明治十四年改律以來。向之西人流寓。歸領事管轄者。自是均服日律。尤講明法律之明效大驗也。多建學堂。改良法律。以成我完全之主權。是所望於各省之司教育管理權者。（完）

東京電報

新內閣組織之成立（西正月八日到）

傳聞今明兩日可決定者爲組織新內閣一事日昨在宮中舉行親任式其與選者如左

總理大臣 西園寺公望　內務大臣 原 敬
司法大臣 松田正久　陸軍大臣 寺內正毅
海軍大臣 齋藤 實　外務大臣 加藤高明
大藏大臣 坂谷芳朗　遞信大臣 山縣伊三郎
農商務大臣 松岡康毅　文部大臣（兼任）西園寺公望
內閣書記官長 石渡敏一

日清協約之決定

日清協約經樞密院決定其內容則正約三條副約計十二條云

中外要聞

●中俄議期遲定之原因 聞俄公使日前至外部會晤外部大臣催詢璞公使開議之期俄使答以中日約條貴國若早宣布內中條欵如無牽制俄國之件本大臣必與貴大臣早定議期云云

●建製造廠之消息 日前練兵大臣奏請頁院改製造軍械廠以爲陸軍槍砲不必外購茲因改建此廠欵項甚鉅將作罷論又聞最近消息於裁併衙署歷年經費項下提集各欵作爲修建製造廠之用

●太后退政風聞 近日軍機大臣召見 皇太后必諭 皇上與諸大臣講求時政研究外交並諭退朝後必須翻閱各省摺奏以資歷練據內廷消息 皇太后已有實行退政之意云

●內閣秘議 日前內閣大學士王文韶孫家鼐世續那桐徐郙五大臣會議事件概將屬員屏退極爲秘秘至散署時已下午四點二十分鐘矣

●餘姚匪耗 昨聞外部接到餘姚紳商公電稱該地土棍聚衆搶掠行狀與拳匪無異大令置若罔聞紳等情急誠恐釀成巨患特稟大部速飭剿滅云云

●招習工藝 聞順天府出示用白話演說略謂京師裡九外七各城擬添設教養局習藝所專收無業貧民凡有年力精壯糊口維艱者前往學習工藝其所出貨物除成本外所餘分十成以三成歸公七成存儲以備工人出廠之用此非罪人之習藝所願入者前往報名以免嚴冬凍餒之苦

●擬廣設吏胥學堂 日前政府電飭各省督撫飭令在各屬府廳州縣等處添設吏胥學堂旋因籌款不易故未舉辦茲聞各紳董會商於每年由麥秋按畝抽租提撥經費認眞開辦

●愼重京察之預備 聞政府近日議擬明年京察之期所有各部院堂官定期先行考試各員俟過堂之時擬派滿漢御史各一員以備該部過堂監視倘有臨期司官告假代替各情者即當該御史指名叅辦云云

●山東學務調員 總辦東省學務處張士珩觀察前奉袁宮保調赴北洋楊蓮帥特電致蔣信甫太史式瑆請其來東辦理學務聞蔣式瑆現在辦理北京電燈有限公司不克赴東電覆辭却所有學務處已由孔少詹太史接辦矣

●張家口監督必裁 外部人云張家口監督雖未裁撤將來開設商埠歸赫稅司收掌稅務之時其監督一缺當由商部奏請裁撤也

雜報

●州牧納寵 聞寧遠州某牧日前因公到錦州盤桓數日瀕行以一百八十金納一小星載之後車云云

●俄兵刦財 昨由北來人云現下哈爾濱爲俄軍之淵藪其散佚兵隊多無紀律由双廟子以北該兵沿路搜刦行人之財無論南來北往遇諸途即行搜刦絕無放過者衣物等件不刦只索洋圓羌帖至日軍上下隘等處不惟日兵恪守軍律秋毫無有犯者即匪亦絕跡云

叢談

●銀鈔微蟲 染人病爲瘵瘵等症腹中或肺內有微蟲爲害錢爲世用之物謂有微蟲往往難信殊不知錢上與票上之蟲甚夥近有美國人於一枚銅元上見二十六微蟲一銀毫上見四十微蟲又在潔淨鈔票上見一千二百五十微蟲一不潔鈔票上見七萬三千微蟲附麗銀錢豈蟲亦貪利耶

●秘魯象皮 象皮之制近創也於一千七百二十六年法人拉公達明首自秘魯傳至歐洲初惟以滅紙上鉛墨蹟自一千八百二十年始推廣其用今其物普徧宇宙成爲工藝中之一大宗其物樹膠所成而美之秘魯及巴西等地甚富樹不一種最優者爲赫委亞樹其膠緻而潤人珍之總計栽樹之地約有五十兆厄克達爾（一千邁當方爲一厄克達爾）秘魯之產盛於巴西每一百五十樹可收膠八百基羅倍於尋常之折中數惜林戶每砍伐取膠以致近城及沿海地日就鮮少故今政部正准刺取禁止砍伐所制象皮每於羅呼多郡出運而伊基多斯埠爲最盛一千九百二年上等皮膠出口者七十八萬又三百二十三基羅次等者二萬九千六百二十四基羅又次者二十一萬七千一百九十七基羅下等者八千六百三十六基羅使該國廣築道路剸取以度則登收日豐他國烏可與爭乎

NEWCHWANG, TUESDAY, JAN. 9, 1906.

THE HAND OF DIVINE PROVIDENCE (PART XIX).

You, generous Christian, do not withhold the immortal laurel from Columbus, because of the plain sailing he had over the trackless sea. Yet, do you grudge Japan the double garlands, won by a grander conquest, under the promptings of a nobler motive? Only because she had a walk-over in the first war, and did meet not a reverse in the second war? Or, do you refuse her the two wreaths of far superior beauty, because Japan belongs to an alien race, whilst Columbus was of your own Caucasian blood? Refuse them, if you will so. Such wreaths as are woven by your contaminated hands Japan can ever go without. An instance of sour grapes? No, no, dear devout Christian master. To tell you the truth, Japan will by choice rely upon the Registering Angel to record the accounts of the two explorative expeditions. She will prefer receiving from Above the garlands that never wither, excelling in beauty any you may even dream of. Since she had been the instrument of Divine Providence in the Japan-China War in a sense not an iota less than in the Japan-Russia War. She had to fight against Chinese barbarism in the first, as against Cossack despotism in the next and, in the two, for her own independent statehood.

To return to the summer of 1894, Japan had borne many an outrage at the Koreans' hands, solely out of the neighbourly courtesy and kindly consideration she owed them. But this self-restraint had been misconstrued for the proof of weakness. The indefinable terror of the unknown, pregnant in China, had struck them with awe. And they had leaned upon China's apparent strength. The conservative Koreans hated light and clung to darkness. The conservative element, under the strong leadership of the father of the King, had espoused China's cause, and, in flagrant violation of the Tientsin Treaty, allowed China to flood the country with her troops. Protests had been to no effect. A little further inaction on Japan's part, and all Korea, the key to Japan's existence, would have lain under Chinese occupation. Matters having been brought to such a climax, the interesting question is repeated: "What would you have done in Japan's position?"

To this question, there can be only one answer from you who, in pursuance of the temporizing policy of cowardly self-preservation, had made a point of submitting to the strong, but tyranizing over the weak, both in Europe and Asia, ever since the beginning of the 19th. Century. If the mountain brook were to run up the precipices and sloping clefts, you, in Japan's position, would have in defiance of death grappled with the terror of the unknown. You would have done what Japan had dared and declared a holy war against the dreaded and arbitrary China. But, since the water, if not influenced by external agencies, must at all times flow down from a higher to a lower plane, the courage necessary for launching into the apparently uphill task of combating with the unfathomable China could never have been found in you who, being fickle and mobile as water, have always yielded before the adamantine front, but, upon the acquired strength of the mass, have wrought pitiless havoc only upon such as may give way to your pressure. In Japan's place, you must have collapsed under the unmeasured weight of China, just as you uniformly did under that of Cossack. However, the faith that inflamed Columbus, the Puritans, and the American Revolutionists, also fired Japan with the same mystic energy to equip her for the fulfilment of her national mission. This energy precipitated Japan into the Japan-China War. It was a war as holy and necessary for Japan as was the Japan-Russia War. A holy one, for, civilization was pitched against barbarism. It was a necessary one, because Japan had to fight in self-defence. Had not China all but absorbed Korea, the key to Japan's life, in transgression upon the Tientsin Treaty? The holy side of the war set apart, Japan, her power permitting, did acquire by the war a right to destroy China. For, in the sight of the law both divine and human, a nation as well as an individual could take another's life in self-defence, with perfect impunity. Well might Japan follow up her advantage in the War, until the whole of China had been conquered. Yet, no power on earth couldjustly interfere with Japan. Liaotung Peninsula had been taken by the Japanese Army, before China sued for peace. China's right to the Peninsula had been legitimately surrendered as a forfeit to the conqueror. Its surrender had been legally confirmed in the following peace negotiations.

列車時刻

唐山至天津　塘沽至北京　天津至北京　山海關至北京
上　上　上　上二
六、〇〇　六、〇一　二、〇〇　八、〇〇
下一　下二　下　下
一、二八　二、〇六　五、二〇　六、四五

天津至唐山　天津至山海關　唐山至山海關　山海關至營口　溝邦子至新民
上一　上　上　上　上
一、四二　六、二五　六、二〇　七、〇五　三、〇〇
下　下　上一　下　下
五、一七　六、二一　一、五八　四、五五　六、五七

大連旅順間下り列車
大連發 午前 一〇、四九 順着
…
營口發上り列車
大石橋 … 十一、三〇

氣象豫報

南の風曇り

昨日の氣温 最高温度三十六度五 最低温度二十三度五

營口旅館料理店案内
いろは順

旅館 第一營口ホテル 元神廟街九十六號
旅館 第二營口ホテル 河岸通り
料理 第三樓 元神廟街三十二號 店主 粕屋忠兵衛
料理 入船亭 永世街百八十三號 谷初次郎
旅館 日營ホテル 河岸通り 店主 井上源吉
料理 東京館 永世街八十六號 店主 村上京四郎
旅館 東茂旅館 西北街百七十三號 正金銀行西三程
旅館 千代田旅館 永世街甲八十七號 店主 高橋さみ
料理 沖の島 永世街十八號 店主 中川彌三郎
料理 吉野亭 永世街八十六號 店主 坪田正好
旅館 竹村館 永世街二十二號(電話五一) 店主 麻田久二
旅館料理 高砂ホテル 高砂亭 西北街 店主 片山小みつ (電話一四五番)
南洲旅館御用達商 濱田新之助 南永世街拾九號
旅館 彌生館 永世街百六十七號
料理 やよひ 永世街百六十七號 店主 宮下只七郎
料理 滿月 平野町百八十二號(電話一六〇) 店主 青木勝憲
料理 滿洲樓 西北街二百五十二號 店主 直塚勝一
料理 萬梅 豊濟門街第百〇四號 店主 田島彌助
御料理 まんなをし 永世街字二本町二百五十九号 元吉田屋跡 店主 和田常松

料理 松迺家 元神廟街 矢野洋行向ひ 店主 山本壽三郎
料理 醉花園
旅館 澁谷旅館 永世街百二十七號 店主 澁田留吉
旅館 大和館 永世街六號
料理 第二大和館 永世街百六十六號 店主 前田九一郎
料理 曙館 永世街平野町 營口座向
旅館 金城ホテル 永世街百六十六號
料理 第二金城ホテル 永世街百六十六號 店主 齋藤富次郎
旅館 東雲旅館 永世街七號 店主 谷口今朝太郎
營口軍政署御用旅館 東雲 主任 谷口今朝太郎
さるそば 第一更科 營口元神廟街
さるそば 第二更科 永世街鶴の湯角
琴三味線處 幷に張替附屬品一切 永世街八十五號二本町角 土生香樂堂
和洋御料理 第二東京館 元神廟街 店主 松田平四郎
東京一流 かき飯

遼陽旅館料理屋案内

旅館料理業 日營ホテル支店 主任 井上源吉
御料理會席 菊水館 主任 朝枝團提
旅館西洋料理 遼陽館 主任 永瀬宇吉
旅館料理業 公陽館 主任 宮川秀基
御料理會席 末廣屋 主任 山根初之亟

御料理 凱旋亭 色々應御注文 主任 古谷庄太郎
旅館御料理 遼塔ホテル 主任 木村常吉
遼陽兵站司令部指定ホテル 遼陽倶樂部 營口東雲館支店 主任 谷口今朝太郎
會席 玉家 御料理 主任 西野治三郎
御料理會席 來々亭 主任 石田清

◎フレノロジー
頭腦を觀察して身の上はんだんをなす
營口豊濟門街廿三號 李後氏宅の西半町 利生堂

正札特別廉價 雜貨賣出し
一婦人髪道具一切及化粧品色々
一防寒シャツ手袋類
一靴下帽子類
一鑵詰及履物
一小間物一切
一賣藥色々
質屋 永世街森病院隣 和清洋行 志田ます

弊店義開業以來御華客樣の御愛顧御引立に預り千萬奉謝候偖て今度遼陽に支店を設け旅館會席御料理相營み可申候間本店同樣御負最御引立の程偏に御願ひ申上候先は御禮旁〻御披露迄早々
營口元神廟街第百三十三号 和洋料理 松月亭
遼陽城内西街百十七号 旅館 和洋料理會席 滿洲ホテル
御客樣各位

●白米 ●石炭 ●干魚 ●建築用材木 ●糯白米 ●木炭 ●鹽魚 ●洋釘 ●亞鉛板
營口永世街八十號 喜久洋行 (電話百五十二番)
卸小賣致候間御用の節は電話又は端書にて御通知次第直に持參可仕候也

酒保品 諸雜貨 御商 神崎洋行
營口永世街甲百廿七號警務課前
▲其ノ外新荷着種々安價大勉强▼

倉庫業
倉庫位置 營口綏定門街(公和窰)院內
郵船會社碼頭ヨリ西二丁余商船會社碼頭筋向イ河岸ヘ半町ニシテ馬車ニ陸揚ゲ便最適當ナル位置
新玉號倉庫部 (電話一五七號)

東洋醫院
竹村旅館ノ側ヨリ河岸ニ通ズル横町ノ中央角(永世街十八號)
午前宅診午后往診入院隨時
山田長

加藤洋行

酒保諸君に急告

弊店儀今回酒保品全部相片付け度特別大見切賣致す可く候に付至急御來店の上御相談被下度願上候也

●麒麟正宗
●諸罐詰類
●卷紙、狀袋
●菓子、砂糖

其他諸雜貨一切取揃へ誠實を旨とし精々勉强仕る可く候間多少に拘らす御用命被下度奉願上候

加藤洋行
(電話八十番)

菊正宗半樽 殊に 麒麟正宗 は精選の上料理店向として輸入したるもの、砂糖、榓柑、塩鯛、塩鮭、其他 諸鑵詰類 會席用諸道具、重箱、いろ〳〵の 勝手道具 荒物類も澤山參りました、

いろ〳〵 年用のものを取揃へ平素の御ひゐきに酬ひん爲聊かながら景品を添へまして當る十六日より二週間歳暮の賣出しをいたしますからどうか賑々しく御光來の程を願ます

爲替相場(一月六日)
日本向 軍票百圓に付金九十圓
上海は 百圓に付六十七兩四錢五分
天津向 は百圓に付一百〇八圓

日本品最近物價表 加藤洋行調査
菊正宗 四斗九升入 銀二十圓
麒麟正宗 三斗九升入 同十七圓
正宗 四斗四升入
正宗 瓶詰四打 同十五圓
鮪 四打入 同十三圓
ラツキヨ 五打 同十四圓五十錢
辛子 漬 四打 同九圓五十錢
フキ 全 同八圓
蝶 全 同十四圓
煉乳 ミルク 全 同十八圓
賓來 菓子類 百斤入 同二十六圓
滋養豆 全 同二十五圓
酒茶 薬豆 百三十斤入 同二十七圓
五十斤入 同十三圓

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 4 cts. a copy
80 cts. per month.
$2.30 per 3 months.
$4.80 per 6 months

本紙定價
一枚に付 銀四仙
一ケ月前金 銀八十仙
半ケ年前金 銀四弗八十仙
一ケ年前金 銀九弗六十仙
廣告 二十一字詰一行一回 銀二十仙